

**まち普請**  
ヨコハマ市民  
まち普請事業  
**平成29年度  
整備助成対象  
グループが  
決定しました!**

平成29年1月29日(日)、横浜市市民活動支援センターで、平成28年度「ヨコハマ市民まち普請事業」二次コンテストが開催されました。二次コンテストに進んだのは、ここ数年では最多の6団体。応援も含めて多くの方々が会場に詰め掛け、創意工夫にあふれたプレゼンに歓声やどよめきが上がっていました。厳正な審査の結果、以下の3団体が平成29年度整備助成対象グループに選ばれました。これからさらに検討を深め、どんな整備が実現するのか楽しみです。

提案名	事業内容	提案グループ名	区名
地域のインテリジェンス「ぶらっと 谷矢部」づくり	谷矢部池公園内のランド脇に公園に集う人々が憩い、学び、交流できる機能を持つ拠点を整備	谷矢部池公園愛護会	戸塚区
太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション	住宅街の畑に地域の人々が開かれた『農・食・環』体験交流の場(エコステーション)を整備	熊野の森もろおかスタイル	港北区
上星川の「ひと」「まち」「こと」のふれあい広場	商店街に建設される三階建てのビルの屋上部分に、地域住民が交流する広場と広場に向かうアプローチ部を整備	F M上星川	保土ヶ谷区



**平成29年度ヨコハマ市民まち普請事業 整備提案募集!**

**私たちのまちを 私たちでつくる きっとまちが好きになる**

ヨコハマ市民まち普請事業では、市民の皆さんが主体となって行う身近なまちの整備提案を募集し、2段階の公開コンテストを通過した提案グループに、翌年度、上限500万円の整備助成金を交付します。平成29年度の整備提案を募集します!!

**募集期間** 平成29年4月3日(月) ~ 6月2日(金) まで  
※詳しくは、都市整備局地域まちづくり課(☎045-671-2679)までお問い合わせください。

**地域まちづくり課 “公認” Facebook 「ヨコハマ市民まち普請ひろば」**

Facebookに登録していなくても、誰でも見られます。 **まち普請ひろば** **検索** クリック

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね!」をよろしくお願いします。(Facebookページの運営は協働事務局のNPO法人アクションポート横浜が担当しています)

**ヨコハマ市民まち普請事業とは…**

地域住民の思いを形にすることでコミュニティの繋がりを強くすることを目的として、市民提案によるハード整備を支援しています。1年を通して行われる、2回の公開コンテストを通過した提案に対して、翌年度上限500万円の整備助成金を交付しています。参加団体が相互支援できる仕組みづくりにも取り組んでいます。

詳しい情報は、横浜市のウェブサイトをご覧ください。 **まち普請** **検索** クリック

事前相談も随時受付中!

**まちづくりについての情報を募集しています。**

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取組などの情報を下記までお知らせください。

メールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

**<<情報提供のあて先>>**

横浜市 都市整備局 地域まちづくり課  
Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」のメールマガジンは地域まちづくりに関心のある方々への転送、お誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込み・停止は、 **ヨコハマ人・まち** **検索** クリック

平成29年3月発行

**ヨコハマ人・まち**  
-まちへ人がまちをつくる-

vol. **53**

発行: 横浜市 都市整備局 地域まちづくり課  
TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641 Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp  
取材・編集: NPO法人 アクションポート横浜  
TEL/FAX 045-662-4395 Email: info@actionport-yokohama.org

1P~3P 第8回横浜・人・まち・デザイン賞 地域まちづくり部門6団体が決定!  
4P ヨコハマ市民まち普請事業 平成29年度整備助成対象グループが決定しました!

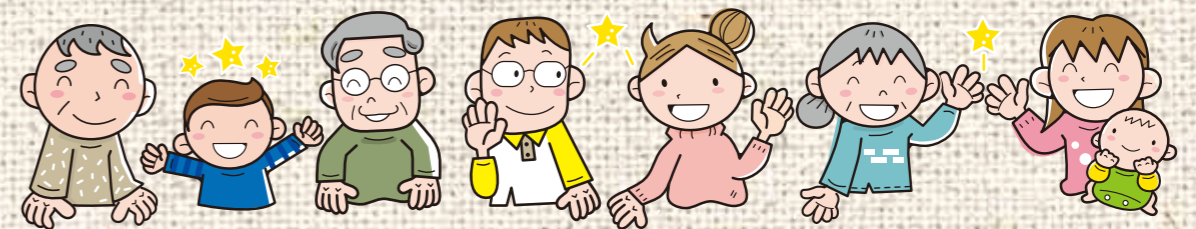
**第8回 横浜・人・まち・デザイン賞**

**地域まちづくり部門6団体が決定!**

横浜・人・まち・デザイン賞とは、横浜市内での地域まちづくりに関して特に著しい功績のあった活動や、都市景観の創造や保全に寄与したまちなみを構成する建築物等を表彰して、魅力あるまちづくりをより広く進めていくことを目的としており、「地域まちづくり部門」と「まちなみ景観部門」の2部門で実施しています。

今回は、平成29年2月に、第8回横浜・人・まち・デザイン賞「地域まちづくり部門」に選考された6団体の取組をご紹介します。

活動名称	活動団体	区	活動概要
農作業を通じた住民の見守りと交流 六ツ川野外サロンプロジェクト	六ツ川野外サロン	南区	野菜農園づくりや野外サロン等を実施
保土ヶ谷の人・まち・文化を活かした街道のにぎわいづくり	ほどがや人・まち・文化振興会	保土ヶ谷区	旧東海道沿道等で地域の歴史や魅力を発信
六浦東地区の人材マップを生かした地域ぐるみのまちづくり	六浦東・地域子育て会	金沢区	住民の特技などを登録した人材マップの活用、運用、企画
港北区を拠点としたみんなで子育てをする環境づくり	特定非営利活動法人 びーのびーの	港北区	育児支援施設や地域子育て支援拠点を運営
中川駅前商業地区の安全で魅力的なまちづくり	特定非営利活動法人 ぐるっと緑道	都筑区	歩行者空間の改善・コミュニティカフェ開設・花と緑と交流のあるまちづくり活動等を実施
「まち工場による地域子育て支援」～東山田準工業地域の取り組み～	一般社団法人 横浜もの・まち・ひとづくり	都筑区	防災マップの作製やオープンファクトリー、まち探検を実施



# 1 農作業を通じた住民の見守りと交流 六ツ川野外サロンプロジェクト (南区)

定年退職した男性が地域での活動になかなか参加しないことを危惧した自治会が、畑仕事なら出やすいのではと、参加を呼びかけました。すると、「土いじり」に関心のある人や、おしゃべりは苦手だけれど農作業なら、という方たちが集まり、野菜づくりが始まりました。この野菜づくりがきっかけで、地域の活動が大きく展開します。育てた野菜を朝市で販売し、さらに学校給食の残飯を再利用した有機肥料づくり、六ツ川小学校の畑の耕作をお手伝いする六ツ川小学校農援隊、中学校のアジサイの手入れ、そしてなんと、青唐辛子を入れたピリ辛の「六ツ川みそ」という特産品の開発まで手がけるようになりました。今では地域の男性が自治会の複数のプロジェクトに積極的に参加するようになり、自治会活動の大きな柱になっています。

畑で栽培した野菜の収穫



# 2 保土ヶ谷の人・まち・文化を活かした街道のにぎわいづくり (保土ヶ谷区)

ある銭湯が廃業するという話を聞き、多くの市民が、再生に向けた検討のために集まったことをきっかけに「多世代交流の場をつくろう」という声が上がります。さらに、個々で地域のために活動していた保土ヶ谷の団体をつなげよう、という動きがはじまり、「ほどがや人・まち・文化振興会」が生まれました。「街道を元気にして行こう!」をキーワードに、保土ヶ谷を「自分のまち」と捉え、まちに愛着をもつ人を増やそうと、保土ヶ谷の魅力を発信する事業に取り組んでいます。もともと歴史的な資源が豊富な地域なので、まちかど博物館スタンプラリーや宿場まつりのようなユニークなイベントでの歴史情報の発信、古くからあった朝市「ごうどいち」の復活、さらには地元野菜を使用したお弁当「ほどがや弁当」の開発など、多様な活動を展開しています。区内の歴史を学び、地域への愛着を持つ人たちが、世代を超えて集まっています。

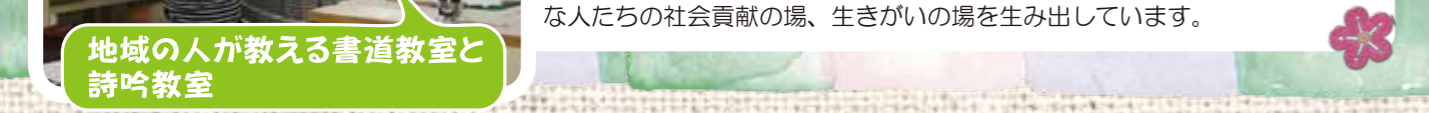
地域を学ぶ「ほどがやまちゼミ」



# 3 六浦東地区の人材マップを生かした地域ぐるみのまちづくり (金沢区)

今から20年以上前、地域には荒れている子どもたちがいました。それに心痛めた主任児童委員が仲間と情報収集したところ、大人と子どもの触れ合いの場がほしい、という保護者のニーズがあがってきました。まずは大人ができることを出し合おうと地域で特技を持つ人を掲載した人材マップをつくり、登録者が教える体験教室をはじめました。さらにそれを知った小学校と中学校から、総合学習をお願いしたいという依頼があり、多くの子どもたちに教えることになりました。現在は、地区社協主催の「ふれあい祭り」がその役割を継承しています。その他にも、ママと子どものフリースペース「わくわくキッズ」など、多くの事業が動いています。さらにそうした活動の拠点として、「ヨコハマ市民まち普請事業」を活用して、民家を改装した交流拠点「もりのお茶の間」も生まれました。最初は26名だった人材マップの登録者は今では100人を超え、多様な人たちの社会貢献の場、生きがいの場を生み出しています。

地域の人が教える書道教室と詩吟教室



# 4 港北区を拠点としたみんなで子育てをする環境づくり (港北区)

NPO法人びーのびーのは、親と子のつどいの広場、地域子育て支援拠点の活動を通して、地域で子育てできる環境をつくろうと、自治会町内会、地区社協、さらに高齢者団体、障がい児・者団体などの多様な団体と連携してきました。地域のイベントに参加したり、「びーのびー」主催のイベントには協力・共催してもらったり、子育てに関する情報を共有化しています。さらに、タクシー会社と「子育てタクシー」を実施するなど、多くの企業とも協力関係を築いています。こうした地道な活動の結果、多様な方たちが子育てについては「自分も当事者」という意識をもっていただけるようになってきました。この柔らかいけれども、お互いの顔が見え、信頼が根底にあるネットワークは、「港福城プロジェクト」という港北区内で福祉に関わる団体・個人が自由に意見交換・学びあいを行うつながりに発展しました。不定期で行われているこのプロジェクトは、これからもわいわい楽しみながら、地域の生の声を拾い、解決に向けて動き出す場になりそうです。

ひろば利用者によるクリスマス会



# 5 中川駅前商業地区の安全で魅力的なまちづくり (都筑区)

地域の中心である中川駅前商業地区で、歩行に危険な道路の改善のために有志が立ち上がりました。地元の商店街、東京都市大学研究室をはじめ、様々な団体からなる「ぐるっと緑道・遊歩道研究会」(後にNPO法人ぐるっと緑道)をつくり、約6年間かかって地域内の歩道が途切れて危険な場所に歩道をつけ、歩行者の安全を確保しました。しかし、隣駅の開発に伴う駅前商業地区の衰退は、地域の悩みの種でした。そこで、研究会はまちづくりワークショップを開催し、駅前商業地区の活性化プランを検討し、地域の協力で実行してきました。また、地域交流拠点としてコミュニティカフェ「ほっとカフェ中川」も開設し、交流と情報発信がぐっと進みました。さらに、「ヨコハマ市民まち普請事業」に応募し、地域のかたで駅前商業地区を花と緑で魅力アップし、地域の中心として再生する「中川ルネッサンスプロジェクト」を事業化しました。このプロジェクトにより、商業地区遊歩道には、花壇、ベンチ、ステージ等、また地元中学校美術部による階段アート等も整備され、まちに活気が戻ってきています。

地域の課題からはじまった動きが、解決を経て、人と人を結び付け、多層なネットワークをつくりました。



冬の「シンボル花壇」づくり

いかがでしたか?最初は小さいこと、あるいは困りごとから地域のまちづくり活動に発展した事例ばかりです。ぜひ、あなたのまちでも小さな種を拾ってまちづくりに結び付けてください。都市整備局地域まちづくり課には、こうした活動を支援するため、まちづくりの専門家の派遣や活動書の助成など、各種制度があります。今回、「第8回横浜・人・まち・デザイン賞」の「地域まちづくり部門」の受賞活動を紹介しました。同時に、「まちなみ景観部門」として8件が選考されました。こちらもぜひ参考にしてください。ウェブサイト：<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/keicho/press/20170309/20170303135721.html>

# 6 「まち工場による地域子育て支援」 ～東山田準工業地域の取り組み～ (都筑区)

東山田準工業地域は工場と住宅地が混在しています。地域に住む子どもたちは工場のそばを歩いていても、工場で何がつけられているのかをほとんど知りません。彼らに仕事内容を知ってもらうことで、その企業に親しみを持ってもらえるし、企業も地域への愛着が深まる、地域の一企業のそんな思いから活動が始まりました。まず、地域の防災マップを中学生とともに作り、職場体験を受け入れたりしていたところ、小学校から「工場見学」の依頼がありました。そこで、近隣の企業とともに「地域のまち歩きツアー」として、小学3年生全員を受け入れることにしました。これにより企業同士の横のつながりが生まれ、地域とのコミュニケーションに消極的だった経営者の考えがガラリと変わりました。このまち歩きツアーは、地域の教師を対象とした「先生たちのまち探検ツアー」にも発展しました。町内会や地域まちづくりルールを策定した「東山田準工業地域をまもる会」などの組織との連携や、「ヨコハマ市民まち普請事業」を活用して、地域の工場の業務内容を示したマップや掲示板を整備しました。今では子どもだけでなく大人も含めた地域のまちづくりがさらに広がっています。

地元企業にものづくりを学ぶ

